

重要貝類毒化対策事業

(1) 広域分布調査

(要 約)

水産増殖センター 木村 大・山中 崇裕・林 義孝
なつどまり船長 浜田 勝雄 他乗組員

水産試験場 涌坪 敏明・大川 光明・黄金崎栄一・菊谷 尚久
仲村 俊毅・植木 龍夫

開運丸船長 宮崎 勇 他乗組員

東奥丸船長 高井 英和 他乗組員

青鷗丸船長 佐藤 勇 他乗組員

この調査は、貝毒原因プランクトンの起源及び分布動態を把握し、貝毒の発生及び消滅の予測に役立てることを目的として実施した。なお、詳細については「昭和62年度重要貝類毒化対策事業報告書（広域分布調査）」（昭和63年3月、青森県）として報告した。

調査方法

1. 調査時期

海 域	日 本 海	津 軽 海 峡	太 平 洋
調 査 年 月 日	62年3月11～12日 4・10 5・7 6・1 6・30 9・2	62年4月21～23日 5・26～28 6・16～17 8・19～20	62年3月2日 6・22～23 8・29～30
調 査 回 数	6 回	4 回	3 回

2. 調査地点

図1に示した青森県沖合の日本海・津軽海峡・太平洋の各定点。

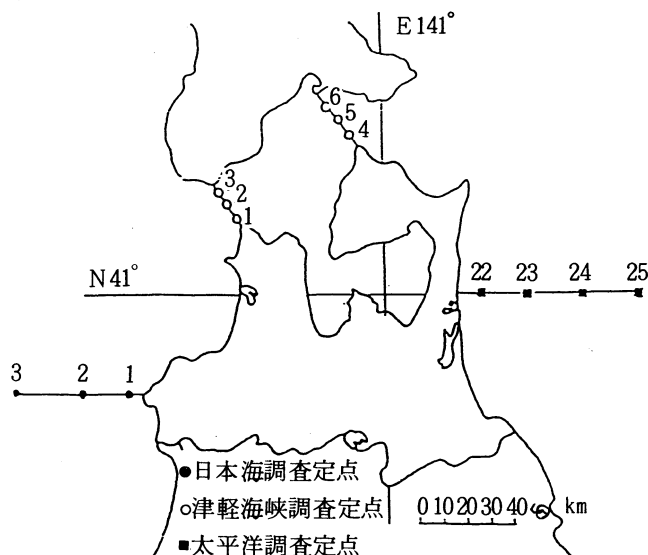


図1 調査海域および調査地点

3. 調査項目

水温、塩分、採水プランクトン

結 果

1. 日本海では3～9月の期間に6回、津軽海峡では4～8月に4回、太平洋では3～8月に3回の調査を実施した。

2. 日本海で*Dinophysis fortii* (以下*D. f.*と略)が最初に出現したのは、3月11～12日であり、10～20細胞見られた。

その時の水温は5.9～8.7℃、塩分は33.6～34.1であった。最高出現数は、6月1日に270細胞見られた。その時の水温は12.1～12.2℃、塩分は33.5～33.8であった。最後に見られたのは6月30日で、10～20細胞出現した。その時の水温は12.8～19.8℃、塩分は32.5～34.4であった。出現、消滅時期は平年並みであったが、最高出現数は今までの中で最も少なかった。

3. 日本海で*D. acuminata* (以下*D. a.*と略)が最初に出現したのは、3月12日で10細胞見られた。その時の水温は8.4℃、塩分は33.6であった。最高出現数は4月10日、1,290細胞という今までの最高の出現が見られた。500細胞以上見られた水温は9.3～9.8℃、塩分は31.7～32.8であった。最後に出現が見られたのは、6月30日で、10細胞見られた。その時の水温は17.8℃、塩分は33.8であった。

4. 津軽海峡で*D. f.*が最初に出現したのは、4月21～23日で10～30細胞見られた。その時の水温は8.5～9.5℃、塩分は33.8～34.0であった。最高出現数は、5月28日100細胞見られた。その時の水温は11.7℃、塩分は34.3であった。最後に見られたのは、8月19～20日で10～20細胞出現した。その時の水温は12.9～20.6℃、塩分は33.8～34.3であった。出現時期は平年並であったが、消滅時期は例年よりやや遅れた。最高出現数は今までの調査の中で最も少なかった。

5. 津軽海峡で *D. a.* が最初に出現したのは3月21～23日で10～80細胞見られ、その時の水温は7.5～10.0℃、塩分は33.7～34.0であった。最後に見られたのは、6月16～17日で10細胞出現した。その時の水温は12.7～15.7℃、塩分は34.0であった。
6. 太平洋で *D. f.* が最初に出現したのは、6月22～23日で10～270細胞見られた。その時の水温は10.8～17.2℃塩分は33.9～34.2であった。最高出現数はこの月の270細胞であり、他海域同様少ない出現数であった。最後の出現は8月29日で20～50細胞見られた。その時の水温は15.6～19.8℃、塩分32.9～33.6であった。
7. 太平洋で *D. a.* が最初に出現したのは6月23日で10細胞見られた。その時の水温は8.6～16.0℃、塩分は33.3～33.6であった。最後に出現したのは、8月29日で10細胞見られた。その時の水温は19.4℃、塩分は33.6であった。
8. *Protogonyaulax tamarens* は、全海域とも出現しなかった。